

(認定)特定非営利活動法人HANDS (Health and Development Service)



NPO法人HANDS
代表理事
横田 雅史

民間企業、財団法人を経て2006年HANDS入職。事務局長として運営を担当。2017年代表理事。英国国立レスター大学経営学修士(MBA)。

HANDSのミッション(目指すもの)

HANDSは、保健医療の仕組みづくりと人づくりを通じて、世界の人びとが自らの健康を守ることができる社会を実現することを目標に、2000年に設立されたNGOです。現地の人たちが自らの力を発揮して問題を解決していくための方法を、HANDSはともに考え実践していく過程を支援しています。

現在はケニア、パプアニューギニア、シエラレオネの3カ国でプロジェクトを実施するとともに、母子手帳の活用を推進する活動を行っています。そのなかで、今回はケニアとパプアニューギニアの活動を紹介します。

ケニア：幼児の栄養改善事業

HANDSのケニア事業は、首都ナイロビから車で西に約5時間の場所にあるケリチョー郡で2005年から実施しています。ケリチョーは標高が高いことにより一年中涼しく、また紅茶の名産地です。

2005年の活動当初は「安全・安心な妊娠・出産」を目標として、保健医療施設の運営能力を高め、医療者のケアの質の向上、そして産前健診の推進などを行いました。その後、2008年からは「産後ケア、新生児・乳児の栄養改善」を目標として、乳児への完全母乳育児推進に向けて母乳育児のためのサポート体制づくりを行いました。

2012年からは保健医療施設から遠く

離れた住民にも、安全なお産や子どもの病気の予防方法が伝わるように、住民の中から「保健ボランティア(CHV)」を育成しています。必要な研修を受けたCHVは地元の村において、家庭訪問をして地域の状況を把握して保健師に報告、また衛生・栄養・健診・予防接種に関するアドバイス等を行っています。

2017年からは、CHVの育成に加え、CHVによる地域の生活改善活動を始めました。その一つとして、CHVが無煙のかまどの作成方法を学び、無煙かまどを普及させることにより、住民の台所環境の整備などを行っています。

そして5歳未満児を対象とした栄養改善事業も開始しました。CHVを始め学校運営委員が維持管理する幼稚園内の菜園では、多様な種類の野菜、果物、穀類、豆類を植え、収穫物は給食の食材として用いたり、販売してその収入により園児の給食の補助食品を購入したりしています。さらに、この菜園は家庭での食の多様性を図るためのモデルとしCHVを中心に地域住民に普及しています。加え、幼稚園の衛生環境改善のために、父母や周辺の住民と協力のうえ、トイレ、雨水貯水タンク、調理室などの建設ならびに通学路整備も行っており、さらに園児の栄養状態のモニタリングを行うために、幼稚園の教員などの能力強化をサポートし、教員たちによる成長モニタリングを継続しています。

2019年からは、幼児の栄養改善事業と並行して小学校とコミュニティと協力して、多種の苗木育成や果樹の植林、野菜の育成などのアグロフォレストリー活



ケニア 保健ボランティアと保健局スタッフの月例会(課題、改善状況、今後の目標等の意見交換)



ケニア 幼稚園の給食の様子

動を各校の環境クラブのメンバーと開始しました。この活動は、自然環境保護の重要性を学ぶとともに、自然と共生する農村モデルをつかっていくことを目指しています。

なおCOVID-19の影響により、2020年3月に幼稚園を含む学校は閉鎖され、幼稚園などでの活動は出来なくなりました。しかし、学校閉鎖中でも地域住民と協力し環境クラブメンバーを対象に活動を継続。CHVに対しては病気予防を目標に住民への栄養啓発に関する研修を実施し、食事モニタリングで幼児のいる家庭の食事状況を確認するなどして、学校再開に向け準備をしています。

パプアニューギニア：女性が元気に暮らせる村づくり事業

パプアニューギニア事業は、2000メートル級の山岳地域にあるエンガ州ライガム郡で2014年より始めました。ライガム郡は特に険しい山々や深い溪谷があり移動が大変で、そのような場所に多くの部族が生活しており、現在でも部族同士の抗争がおきて、その地域に入れないことがよくあります。

そのような厳しい自然条件のなか医療施設の数は少なく、道路も悪いため、多くの場合、診察を受けるためには何時間も歩いて行く必要があります。さらにパプアニューギニアは伝統的に男性中心の社会で、特に山岳地域は昔から伝統や習慣に保守的な傾向がみられます。そのため、出産や予防接種など医療施設に行く必要がある場合も診察を受けず、そのことにより命を落とす妊産婦や乳幼児も少なくありません。

このような状況を改善していくために、次の2つの活動を対象地域で実施し、またそれらの活動をエンガ州保健局がマネジメント出来るようになることを目指しています。

1) 各コミュニティ出身の村落保健ボランティア(VHV)を育成して、VHVにより各コミュニティの健康促進・疾患予



パプアニューギニア 村落保健ボランティアの講義研修

防などの啓発活動を行う

2) 医療が届きにくい地域へのモバイルクリニック(移動式診療)サービスを整備する

なおVHVを選出する際に重要なことの一つは、育成するVHVのうち半数は女性を選出するという点で、これは性別を意識した風習が根深く残る地域性を考慮し、男性VHVには介入しづらい母子保健分野を女性VHVが担当し、またそのように女性VHVが活躍することによって女性の存在がコミュニティ内で認められ、やがては女性の社会的地位が向上することも期待しています。

今までに240名以上がVHVの育成研修を終え、それぞれのコミュニティに戻り、日常的に近隣住民に向けた健康啓発活動を行っています。またモバイルクリニックサービスを実施するための施設も順次、建設を行っています。

なおCOVID-19感染拡大に伴い、一時的に集会や研修を行うことができなく



パプアニューギニア 野外でのモバイルクリニック(移動式診療)



パプアニューギニア 女性の村落保健ボランティアと家

なりましたので、VHV向けに少人数でCOVID-19に特化した追加研修を行いました。COVID-19に関する正確な情報と手洗いやマスクの重要性など予防方法について研修を行い、学んだことを各コミュニティで家庭ごとに伝えていきます。

ご支援のお願い

HANDSの活動は、皆さまからの寄付等により成り立っておりますので、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。

ホームページ: <http://www.hands.or.jp/>

ホームページ(寄付): <http://www.hands.or.jp/support/index.html>

フェイスブック: <https://www.facebook.com/npohands/>